

展望台の山から新雪の甲斐駒・八ヶ岳を 日向山

実施日 2012年12月4日（日）
 天候 快晴（強風）
 リーダー 涌井 良明
 参加者 佐藤金治、一柳昭、涌井良明、友近洋子、鈴木恵美子、石附智江、遠井謙策、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、関塚七海、小林千恵 計12名
 費用 JR(ホリデーパス)2,300円タクシー代 3,030円(韭崎⇒駒ヶ岳神社・矢立石⇒日野春) 計5,330円
 タイム 韭崎駅(9:50~10:00)竹宇駒ヶ岳神社(10:30~10:40)矢立石登山口(10:45)矢立石(11:40~11:45)休憩1450m(12:15~12:20)三角点(13:20)雁ヶ原(13:40~13:45)昼食(14:00~14:30)矢立石(15:20~15:30)日野春駅(15:50~15:57)
 データ 行動時間4時間40分
 積算距離6.56km
 総上昇量1,074m
 移動平均速度2.6km/h

終日一点の曇りもない快晴の山行だったが… 予定の矢立石への途中で林道通行止めの案内が！仕方なく竹宇駒ヶ岳神社へ回りタクシーを降る。尾白川溪谷のベースなのでクルマも多いが日向山への登山者も多いようだった。ここから矢立石へのルートは昭文社の地図にも記載がないが、かなりの登山者はこちらの広い駐車場があるルートから多いようである。地図情報の改訂をしてほしいものである。

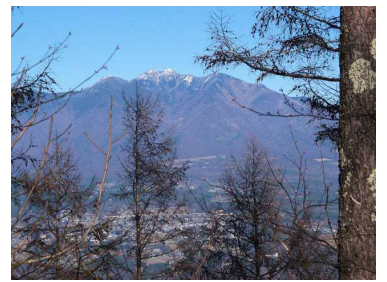
タクシーで行く予定の矢立石に向かい急登を登ること50分で着く。なんとと！路肩の駐車場は満車状態。地元のプロドライバーが林道の状態を知らないのにはガッカリだ。



予定が一時間遅れになったのでリスク回避も考えここからの往復登山とすることにした。リーダーの事前調査不足もあったのは反省すべき点である、今後の戒めにしたいと思っている。

さて、矢立石からはそれまでと違い道型もはっきりしておりジグザクに高度を上げて行く、葉をすっかり落としたカラマツが多い道で時季が当たれば黄金の道

になるだろう。所々裸の木々を透し左右の眺めを楽しみつつ登る。左に富士山、鳳凰三山のお地蔵さん、圧倒的な存在感で威圧する甲斐駒ヶ岳、右には新雪を纏った八ヶ岳などが単調な登りを慰めてくれる。

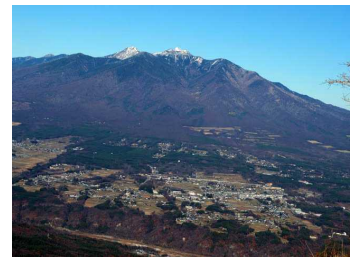


時刻は昼時だが取敢えず行動食でしのいで、進む。登るにつれ頭上で木々を揺らす風の音が響くようになる、山頂直下で強風に備えて完全武装をしてから、ま



ず三角点へ、展望はない、小広点がある。集合写真を撮る。雁ヶ原に向かう、雁ヶ原に一步足を出すと猛烈な西

風に襲われる、白砂の稜線がアダとなり砂を巻き上げた風が吹き荒れている。確かに展望は素晴らしく一点の雲のかけらもない青空が広がり正面に八ヶ岳が、遥かに中央アルプスも望める、勿論真上に太陽を戴いた甲斐駒も巨大なシルエットのように聳ええる。当初予定ではここで眺めとお茶の時間を過ごしたかったが…である。



早々と退散して引き返す、少し広めの登山道脇で遅めの昼食とした時は14時になっていた。少し風もあってお茶を沸かすのも断念して下山とした。登りだけの道は下りのみとなり、15時20分矢立石に下り、途中で呼んだタクシーで日野春へ。

好天ではあったが、往路の林道事件、山頂部の猛烈な風などでもくろんでいた、のんびり山行とはならなかったが、これも山の経験と思い、しっかりと忘れずに反省会？をして帰宅となった。

1000mを超す登りとなってしまい、少々きつい山行となりましたが、こんな山もあったなあ、と記憶に残ればと思います。これに懲りず、またご一緒に歩いていただけることを期待しています。

（記&写真提供・涌井 良明）